「水田畑地化（汎用化）」に向けた取り組みを進めています

五島地域の主食用米作付面積（H29）は、427haと水田面積の3割を占める重要な品目ですが、その面積は年々減少しています。また、本年から、国において米政策の見直しが行われ、米の生産数量目標の配分を廃止するとともに、「米の直接支払交付金」が廃止されました。

そのため、水田における所得を確保するには、経営所得安定対策等のメリットを受けやすい麦・大豆、稲ＷＣＳなどの新規需要米等の戦略作物の拡大や収益性の高い園芸品目等への転換が重要です。

このため、県では、需要に応じた米の生産を引き続き推進するとともに、戦略作物の面積拡大を推進する一方で、高収益作物の導入が可能となる「水田畑地化」の取り組みを進めています。

先進地域での取り組み

平成 30 年 10 月 18 日から 19 日の２日間、「水田畑地化」に向けた知識･技術の向上を図るため、先進的な取り組みを行われている佐賀県白石町、福岡県築上町及び福岡県嘉麻市にある福岡九州クボタのほ場において、現地研修会を開催しました。

主催：五島市農業農村整備事業推進協議会、五島市農業振興対策協議会技術者会

野菜による「水田フル活用」と地域農業の持続的な発展【佐賀県白石町】

【取組地域の概要】

○位置
佐賀県白石町（しろいしちょう）（過疎地域）

○主要作物
・水稲、麦、大豆、たまねぎ、キャベツ 等

背景

白石町のたまねぎ栽培は、減反政策が始まり水田の裏作に適した作物を模索していたころ、淡路島での現地研修会をきっかけに行われるようになりました。

また、キャベツ栽培は、さらなる所得向上を目指し、早期米の後作として行われるようになりました。

生産基盤

白石町では、区画整理や暗渠排水の整備・機能維持対策を行い、たまねぎ等の高収益作物の作付拡大と農作物の安定生産を実現しています。

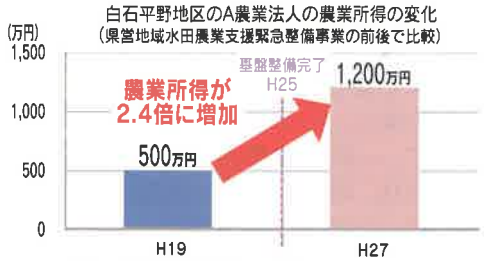
暗渠排水の整備状況
（疎水材はボラ土）

特徴

・11箇所のたまねぎ低温貯蔵施設完備
（年間3,500ｔの貯蔵が可能）
・単価は80円～100円／kg
（3年に１度は安くても構わないとの考え）
・機械は共同利用
・たまねぎ栽培規模は平均1ha／戸
・機械化による作業時間は65時間／10a
（人力なら160時間／10a）
・排水対策は、暗渠＋ｻﾌﾞｿｲﾗｰ＋額縁明渠

効果

経営規模の拡大と高収益作物の安定生産により農業所得が向上しています。



【出典：佐賀県農地整備課による推計】